

京大合格者語録

- 自由な学風にひかれて
- 不得意科目は早めになくせ
- 答えよりも過程を重視しよう
- 六割の得点を目標にせよ
- 京大入試では日本史が一番簡単
- 問題は必ず解けるようにできている
- 勉強の面でバカになれ
- 色刷りの参考書は使うな
- 参考書に金をおしむな
- 出題者の立場で考えよう
- 睡眠不足は気にするな
- 現国は評論を多く読もう
- 現国は本文で勝負する
- 教科書の通読で歴史の流れをつかめ
- 社会は用語集と年号が大切
- 社会は夏休みまでに仕上げよう
- 中国史は必出
- 化学は有機、物理は力学
- 直前には間違っただけのやり直しを
- 入試直前には教科書だけに絞る
- 合否は発音・アクセントにある
- 共通一次試験にはこだわらな

カバーデザイン・百々亀利雄

私の京大合格作戦

78年版

こうすればあなたも合格する・合格体験記



エール出版社編

私の京大合格作戦

78年版

エール出版社編



エール出版社

- 私の京大合格作戦78年版
こうすればあなたも合格する・合格体験記
エール出版社編
- <1章> 東大より京大 自由な学風にひかれ/京大何するものぞ
 - <2章> 授業重視でラクラク合格 一にも二にも授業の完全理解
 - <3章> 現役時の失敗から学べ 昨年の失敗を無駄にはするな!
 - <4章> 京大の傾向と対策 先ずれば人を制す/英数国中心で
 - <5章> 栄光の道も一歩から ガリ勉は無意味/主体的な勉強を

0277-0294-0641

エール出版社 ● 680円

大学合格作戦シリーズ

- 私の東大合格作戦 72年版、74年版、75年版、77年版、78年版
- 私の東大合格英語作戦
- 私の京大合格作戦 78年版
- 私の早慶大合格作戦 78年版
- 私の医学部合格作戦 77年版、78年版

エール出版社編 680円(〒120)

ことわざ英語に強くなる本

- 入試に出ることわざ・熟語が満載
- 大野一男著 680円(〒120)

私の京大合格作戦78年版 680円 120

昭和52年 6月15日 第1刷発行

編者 エール出版社
発行者 西田 幸生
発行所 エール出版社
東京都千代田区神田神保町1-51
TEL 東京(291) 0306
振替 東京 4-33914

●乱丁・落丁本はおとりかえいたします。

一にも二にも授業の完全理解だ

中石 滋 雄

灘高校（兵庫・私立）
現役・医学部

入試直前は教科書だけに絞ること。
教科書を熟読し、自分で書いてみれば不安な気持ちもなくなるはず。



私の時期別学習計画

僕の京大合格は、かなり幸運に恵まれていたとも思うのですが、曲りなりにも現役合格した者として、僕のしてきた勉強内容を、将来京大へ進もうとしている皆さんにお見せしようと思います。皆さんに、この拙文の中から何か一つでもプラスになるものをくみとっていただけたら幸いです。それでは、時期的に追いつながら書いていく事にしましょう。

▽高一—高二〔英数の基礎固め〕

僕は灘中学校出身なので、いわゆる六年間一貫教育のもとで中三から高校の課程に入っていました。この二年間は、漠然と東大文系を念頭において、英数中心に一日三時間位の勉強をしていました。いや、英数しかなかったと言う方が適切かもしれません。しかし、結果的には、英数——特に数学——が高三の時負担にならなかった事が合格に通じた様です。理科のヒドさは全く呆れる程で、状態方程式や凝固点降下などの化学の基礎理論さえ、全く理解していません。社会は、世界史のみ比較的良好にやっています。勿論、授業のみですけれど。

高二の一月になり、両親の勧めや担任の先生との相談などにより医学部に進む事にし、将来、関西に居住したいという事と、昔から京都の街そのものに憧れていた事もあって、志望校を京大医と決定しました。

高二終了時点での各科目の履習度を記します。参考にして下さい。

〔英語〕

高三のリーダーが終了。授業以外は何もせず。「しけ単」「しけ熟」の語句のうち、知っている割合は二〜三割（この二冊はよくできた本ですが、無理に覚えるのは良くありません）。

〔数学〕

高一で「メジアン数Ⅰ・ⅡB」、高二で「整理と演習数Ⅰ・ⅡB」、その他を学校でやり、数Ⅰ

		京大入試での獲得目標点と実際点(推定)	
		目標点	実際点
模試の成績(素点のまま)	英	120	150
	数	160	150
	国	130	130
	物	80	70
	化	80	80
	世	90	80
	計	660	660

高2(6月旺文社711月学研)						
	英	数	国			
6月	57	86	46			
7月	68	89	69			
11月	67	100	45			
高3(統一模試 英数国は200点満点)						
	英	数	国	物	化	世
9月	122	96	113	49	67	76
11月	111	170	98	26	52	61
1月	146	155	127	65	78	69

とII Bに関しては、難問(つまり東大や京大の入試問題) 以外はだいたいできました。

(国語、社会)

古文は比較的よくわかっていましたが、漢文は全くダメ。世界史は、学校の授業の関係で、欧州近世史がよくわかってました。この二科目は、教科書以外は使用しませんでした。

(理科)

物理はIがほぼ終り、IIに少し入っていましたが。化学も同様。けれども、それは学校の授業進捗の話で、僕の頭の中はスッカスカカン。物理Iの運動の法則のあたりのみ理解してました。

▽高三・一学期(長期的スランプ)

五月に学校で受けた学研模試で惨敗。信じられないような悪成績で、合格寸評に「この力で合格は困難。志望校を再検討すべし」と書か

れ、これを発端に長期にわたるスランプになる。学校では数IIIに振り回され、Z会もやりはしたが全然気がおらない。時間的に余裕のない人は通信添削はやらないほうがいいと思います。

要するに、この時期は勉強はガラガラと時間をとる割に一向に進まないという典型的なスランプだったのです。毎日が眠くて眠くてたまらないのです。どうかしてこの状態を脱しようとはしたのですが、もがけばもがく程深みに落ち込んでいくといった感じだったのです。

夏休みは、心機一転、英数国のみじっくり落ちついて取り組みました。それというのは、五月以後のスランプの原因は焦りではなかったかと思うようになったからです。Z会の問題を、二日で一枚を仕上げる程度のスローペースでやりました。夏休みにやった事といえば、これ以外ほとんどありません。これは、速効性はありませんでしたが、後になって、この時の蓄積が役に立ったようでした。

▽高三・二学期(物理の克服)

九月の休みあけの統一模試では、数学を休み中にZ会以外せんぜんしなかったもので、ピントがはずれていて、何と半分以下。

しかし、この九月を最低とし、十月以降、徐々に回復の兆しが出始めます。まず、理社を本格的にやり出しました。世界史は、京大の東洋史重視にあわせて、「受験の世界史」の東洋

史関係数冊をやりました。化学は、有機化学を授業でよくやっていたので、理論化学の克服を始めました。

この二科目は、スタートから比較的順調だったのですが、物理だけは高一以来の苦手意識が強すぎて、物理の参考書を読もうとしても半ページも読まぬ間に眠くなるという様な状態でした。模試でも半分を越える事はなく、十一月の統一模試では二六点でした。

この物理を何とか克服し始めたのは、十一月の中頃です。具体的な方法を書いてみますが、結局、「授業の完全理解」という事なのです。ちょうどその頃、学校では物理Ⅱの原子物理に入った所だったのですが、僕は、予習として、教科書を二、三度通読し、更に、ノートに要点を写しました。今度は、教科書を見ずに、自分で理論の進め方を理解しながらノートに書いていくのです。原子物理は、他の分野にも密接に関連しているので、物理全体の理解が必要です。こうして、僕は、徐々にではあるけれども、物理がわかりだしました。

こうして冬休みになると、僕の勉強は主に物理に絞られてきました。二学期中に「物理入試問題集」を約三分の一やっていたのですが、残り一二〇問は冬休みにやりました。

正月を迎えて、かなり充実してきていた僕は、最後の追い込み期に対する課題を決めました。

〔英・国〕 カンが失われない様に、二日に一度は触れる事。

〔数学〕 一日三題完答する事。

〔物理〕 電磁気・波動の理解

〔化学〕 無機化学の整理

〔世界史〕 バラバラの知識の総合化

▽高三・三学期〔物理の追い込み〕

三学期は学校も昼までになり、自分の勉強に多くの時間がとれました。

この時点では、化学・世界史からはしばらく離れ、「物理入試問題集」の二度目に挑みました。一月の終わりには、物理も波動以外の分野なら、ほぼ自信がつかえました。英数国は、前に決めた課題通りのペースで流していただきました。

入試直前には教科書だけに絞る

▽直前〔精神的充実〕

入試直前の心得は、決して焦らない事です。前々から聞かされていたのですが、直前になるとあれもできていない、これもできていないと何もかもが不安になってきます。しかし、僕はその感情を押さえるのにどうやら成功しました。僕の場合のその秘訣みたいなのは、「教科書だけに絞る」という信念でした。世界史の教科書は、気分一新のために新しいのを買いまし

た。このように、物理・化学・世界史とも教科書の熟読に徹したのです。

けれども、単に熟読だけでは不十分です。更に、自分で書いていかななくてはなりません。物理では、公式の導き方を研究しました。化学は、無機と有機を何度も何度も読み、更に化学工業の合成経路図などを、真白の紙に書きました。世界史は、教科書の小見出しを書き抜いておき。その内容を頭の中で暗唱しながら、重要単語のみ漢字にも注意しながら書くのです。

英語は、高三の授業が教科書を使用しなかった事もあり、二月には、「標準英文問題精講」を指定通りの日数でやりました。これはかなりハードだったのですが、英文に対するカンみたいなものができた様に思います。詳しい解説があるのですが、それはほとんど読まず、とにかく英文を多く読む事を心掛けました。ただし、入試においては、英語の成績は惨々でした。

国語は漢文に時間を多く割きました。土壇場では、現国や古文の飛躍は期待できませんが、漢文は大幅に上昇させられます(ただし、これは、今まで余り漢文をやらなかった人の場合ですが)。

数学は一日三問、問題を決めずにやりました。例えば、「傾向と対策」をパッと開いてそのページをやるといふように。

▽入試当日(人事を尽して天命を待つ)

僕は京大と共に慶大医学部も受けたのですが、僕が各々の入試当日気をついた事を書きま

●慶大は暖房がよく効いていたが、京大はストーブをつけてくれず、ひどく寒かった。絶対に重ね着していく事。

●京大は下書き欄が十分広いので計算用紙等に不足はないが、慶大はペン書き(理数は鉛筆も可)の上、余白はひどく小さく、計算用紙をうまく使う事。

●字はそれ程丁寧に書く必要はない。僕の場合、数学で最初大幅に時間をロスしたけれども、別に影響はなかった。勿論、丁寧に越した事はない。

模試は月に一度くらいがよい

それでは、科目ごとに京大入試での僕の気の付いた事を書いてみましょう。

国語

四番の漢文から始めました。約三五分。三番古文、約四五分。二番現代文、約二五分。一番現代文、約四五分。以上が大体の所要時間でした。国語では、設問に忠実になれ、という事を強調しておきましょう。

数学

前にも書いたように、僕はひどく緊張していたので、数学では最初四〇分間、⑤④①と見てどれもできませんでした。そこで、目をつむり、ぐっと深呼吸して②に挑みました。②があま

りにもアツケない問題だったので、続けて③⑤①④⑥の順でやりました。とにかく数学では、調子が悪い時には、全く信じられない様な誤りをおかすのです。

$$(a-b) = \sqrt{5}(c-d) \quad (a, b \text{ 実数})$$

なんていう式から

$$a=b, c=d$$

とやっけていても気づかなかったのです。とにかく落ち着く事です。

英語

これは書く資格がありません。ヒドいものでした。

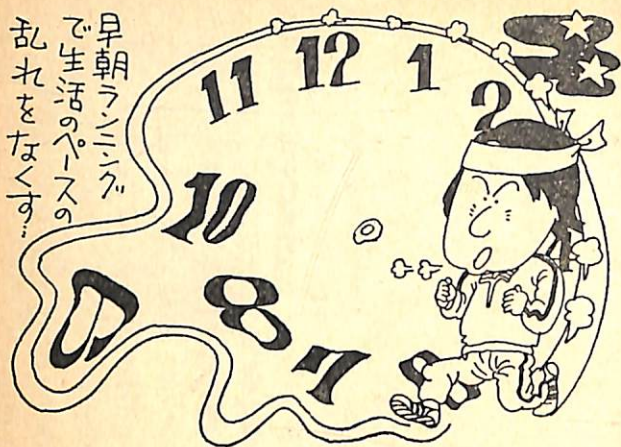
理科

物理から始めて、九〇分使ってしまいました。この愚は絶対避けるべきです。七五分ずつ、きちんと使って下さい。ただ、化学はあとでやった方がいいです。幾分時間が不足きみの方が手際よく解答できます。

社会

世界史では、ほぼ九割とれました。教科書から七割以上出ますから、教科書を確実にして下さい。

京大の入試においては、特に理社で、教科書の徹底理解が大切です。そして授業を大切にし



て下さい。最後に、受験に関する幾つかの項目について気の付いた事を書きます。

参考書

「シケ単」「シケ熟」は一応やりました。あれは覚えるためではなく、知るために使用して下さい。他の英文中で一度は出ますから、その時に、「ああ、シケ単にあったなあ」と思い出すのです。そしてその英文中で覚えるのです。

理社はチャートがいいと思いますが、参考書に辞引がわりに使用して下さい。あんなのを全部覚えるなんて気違い沙汰です。

模試

月に一度位受けるのが一番良いと思います。国語が記述式で、数学が比較的難しいのがよいと思います。近畿地方の人は「三大学判定模試」を受けてみるとういでしょう。

息抜き

息抜きの必要な事は言うまでもありません。僕の場合、荒井由実の歌を聞くのが一番心安まりました。又、たまにはランニングをするのもいいでしょう。特に、二月になると学校がなくなるので、生活のペースが乱れ勝ちです。その上、運動不足にもなりますから、早朝ランニング等が効果的です。

僕自身の、勝手な「受験記」でしたが、むろん、最上の勉強をしたなどとは思っていません、自分に合った勉強法を見い出して下さい、御健闘をお祈りします。